

第 38 回西洋社会科学古典資料講習会 講師紹介

11 月 5 日 (月)

展示論・生涯学習論「貴重書を学習に活かす工夫(仮)」, 文献研究「貴重書の絵を読む 西洋図像学(仮)」



馬場 幸栄 (ばば ゆきえ) 氏

一橋大学社会科学古典資料センター助教。専門は書物史、文化資源学、比較文化。慶應義塾大学 HUMI プロジェクトや国立民族学博物館で文化財のデジタルアーカイブ研究に従事。大学で書物史・博物館学の講義を担当するかたわら、子どもから大人まで楽しめる羽根ペン教室を開催して西洋貴重書の教育普及に努める。

書物誌「西洋写本の世界(仮)」



高宮 利行 (たかみや としゆき) 氏

慶應義塾大学名誉教授。シェフィールド大学名誉文学博士、グラスゴー大学名誉文学博士。ケンブリッジ大学書誌学リーダー。ロンドン好古家協会フェロー。専門は中世英文学、書物史。著書に『西洋書物学事始め』青土社(1992年)、『図説本と人の歴史事典』(共著) 柏書房(1997年)、『アーサー王物語の魅力』秀文インターナショナル(1999年)、『本の世界はへんな世界』雄松堂書店(2012年)など。中世写本のコレクターとしても知られる。

書物誌「西洋印刷本の世界(仮)」



武者小路 信和 (むしゃこうじ のぶかず) 氏

元大東文化大学文学部准教授。専門は図書館・情報学、「モノ」としての書物の研究(書誌学、ブックデザイン)。論文に「J.M.Keynes と書誌学」『経済資料研究』(no.33; 2003)、「John Maynard Keynes と The Baskerville Club」『教育学研究紀要(大東文化大学)』(no.2; 2011)など。

11 月 6 日 (火)

古典研究「『戦争と平和の法』はなぜ書かれたのか」



山内 進 (やまうちすすむ) 氏

一橋大学前学長。一橋大学名誉教授。専門は西洋法制史、法文化史。最近は「戦争と平和の法思想史」を研究テーマとし、著書に『増補 十字軍の思想』筑摩書房(学芸文庫 2017年)、『文明は暴力を超えられるか』筑摩書房(2012年)、『北の十字軍』講談社(1997年、学術文庫 2011年)、『掠奪の法観念史』(1993年)など。

書誌学「西洋貴重書の目録作成」「目録作成実習」



高野 彰 (たかの あきら) 氏

元跡見学園女子大学文学部教授。日本文化博士。専門は書誌学、印刷史、図書館史。著書に『洋書の話』第2版, 朗文堂(2014年)、『英語本の扉』朗文堂(2012年)、『帝国大学図書館成立の研究』ゆまに書房(2006年)など。パピルス紙の制作や活版印刷にも取り組む。

11月7日（水）

保存・修復（Ⅰ）「西洋貴重書をカビ・虫から守る（仮）」



吉川 博幸（よしかわ ひろゆき）氏（左）

井上 桃子（いのうえ ももこ）氏（右）

吉川氏は株式会社明治クリックス代表取締役社長、井上氏は同社文化財 IPM 事業部係長。文化財 IPM (Integrated Pest Management) の考え方を軸とし、各地の大学図書館・美術館等を対象に、カビ・ムシ対策を中心とした文化財保存のコンサルティングから環境調査、燻蒸処理までトータルサポートしている。

保存・修復（Ⅱ）「西洋古典資料をもっと知るために」



岡本 幸治（おかもと こうじ）氏

製本家、書籍修復家。製本工房「アトリエ・ド・クレ」代表。フランス 1' U. C. A. D. 付属製本学校およびパリ市立エステイエヌ校で工芸製本と箔押し装飾を学び、フランス教育省職業適性証明書「手製本」(C. A. P. reliure main)を取得。池袋コミュニティ・カレッジ「ルリユール工房」講師を務めるほか、数多くの西洋古書・貴重書の保存修復や保存調査事業に携わっている。